

令和5年度第1回産業衛生技術部会拡大幹事会議事録（案）

日時：令和5年（2023年）5月12日（金）12:30-13:30

場所：ライトキューブ宇都宮 小会議室101（第6会場）およびZOOMでのオンライン開催

出席者：青木隆昌(*), 飯田裕貴子, 伊藤昭好, 牛澤浩一, 大久保茂子, 奥田篤史, 加藤隆康, 河合直樹(*), 川上貴教, 齊藤宏之, 榊原洋子(*), 田口豊郁(*), 竹内靖人(*), 田畑正司, 田村三樹夫(*), 津田洋子, 藤間俊彦(*), 土肥誠太郎, 中村 修, 中村憲司(*), 中原浩彦, 橋本晴男, 浜井盟子(*), 東久保一朗(*), 樋上光雄, 森 洋, 森本寛訓(*), 山野優子, 渡邊裕晃(*)

[五十音順, 敬称略, (*)はオンライン参加]

1) 令和4年度第2回拡大幹事会・第3回幹事会議事録の確認

- ・ 前回議事録の確認が行われた（特に修正意見はなし）。

2) 部会新体制について

- ・ 橋本部会長より、令和5年度から2年間の部会体制について報告された。

3) 2022年度決算報告・2023年度予算案

- ・ 会計担当より、2022年度決算および2023年度予算案について説明があった。
- ・ 2022年度決算について、加藤監事から監査の結果適切に執行されている旨報告があった。
- ・ 2023年度予算案について、当該年度未までに予算の適正化を図る必要があるが、残金を学会本部へ返納するかどうかは、本部にて検討中である旨説明があった。

4) 第96回学会（宇都宮）における部会主催行事の報告

- ・ 事務局より、前日開催されたシンポジウム、当日開催される幹事会、総会およびフォーラムについて報告された。

5) 第34回全国協議会（甲府）における部会主催行事の提案

- ・ 中原副部会長より、産業衛生技術部会シンポジウム「経皮吸収に関する最近の動向（仮題）」について、田村幹事より産業衛生技術部会専門研修会「北陸甲信越における現場からの報告（仮）」について、それぞれ進捗の説明があった。
- ・ 全国協議会開催期間が他のイベントと重なっているため、参加予定者は早めに宿泊の手配をする必要がある旨注意喚起があった（オンライン開催はしないとのことである）。

6) 令和5年度第一回研修会の開催案

- ・ 教育研修担当より、産業衛生技術部会令和5年度第一回研修会の企画について説明があった。森幹事より、東北地方会と日程が重なっているとの情報提供があった。
- ・ 来年度以降も年1回程度研修会を開催することを予定しており、東京開催に限定せず各地方幹事とも協力して地方での開催も視野に入れている旨説明があった。
- ・ 榊原幹事から、部会企画に部会員の要望が反映しやすくなるよう、幹事会への企画案の提示と情報公開についてどのようなスケジュールで行われるかプロセスを明確にしておいた方が良いのではないかという意見があった。
- ・ 事務局より、これまで教育研修担当がうまく機能していなかった現状を鑑み、今回は新たな体制にてテストケースとして企画を進めたとの説明があった。演者や会場のスケジュール調整の都合もあり、事務局側で企画を進めさせていただいたが、今後は幹事の皆様の意見を取り入れ、プロセスを修正しながら次回以降の企画を進めていく方針。

7) 第97回学会（広島）の準備状況の報告および、部会主催行事のテーマ案の協議

- ・ 森本幹事から、第97回学会のプログラム応募について説明があった。第97回学会では企画を公募形式で募り、調整していく方針とのことである（部会企画等の枠は従来通り用意される）。6～7月にはフォームが出来上がる予定であり、そこからエントリーする形となる。
- ・ 技術部会の企画として、以下の提案があった。
 - 化学物質管理における確認測定の実例等、現場の状況について
 - 関連法令の解釈と技術者倫理

- 産業現場での理学療法士の活用（高齢労働者への対応という観点から）
 - 生物学的因子（レジオネラ等）
- 8) 第 35 回全国協議会（木更津）における部会主催行事について
- ・ 木更津での開催なので、専門研修会は関東地方会が担当。
- 9) 奨励賞ならびに特別功労賞について（報告）
- ・ 橋本部部长（表彰委員会委員長）から、奨励賞（中村剛先生、武藤剛先生）および特別功労賞（中明賢二先生）について報告があった。本日の総会にて表彰予定。
 - ・ 次回の奨励賞について、各地方会幹事へ候補者の推薦を依頼した。
- 10) KIHA 学会参加報告
- ・ 中原副部長より、韓国・済州島で開催された KIHA 国際学会（2023/2/22-24）の参加報告があった。
- 11) ANOH 学会について
- ・ 中原副部長より、今年 8 月末にフィリピン・マニラで開催される ANOH について、現在演題募集中である（締切が今月末まで延長された）ので積極的な参加が呼びかけられた。
 - ・ 橋本部部长より、2026 年の ANOH 日本開催について、もう 1 つの団体会員である日本作業環境測定協会と協力していく方向で検討していく意向であることが表明された。
 - ・ 加藤監事から、日本開催の運営を技術部会でどれだけできるか、部会員全員が当事者としてしっかりと考えていただきたいとの意見があった。
 - ・ どのタイミングで開催するかどうかを議決するののかについて、橋本部部长より今年秋の拡大幹事会において議決することが提案された。
- 12) 個人ばく露測定に関する特別委員会設置についての提案
- ・ 中原副部長より、技術部会が作成した個人ばく露測定ガイドラインのエッセンスをまとめた簡易版を作成することについて説明があった。
 - ・ 簡易版を作成して終わりではなく、それを元に勉強をして理解を深めていくための誘導資料とする方針であり、併せてツールの紹介等も行う方針。
- 13) 各地方会からの報告事項
- ・ 竹内幹事より、6 月 10 日に開催される近畿地方会研修会の内容について報告があった。
 - ・ 齊藤事務局長より、8 月に開催される関東地方会研修会の内容について報告があった。
- 14) 部会事務局からの報告事項
- ・ 中原副部長より、OHTA 教育資料翻訳事業の進捗について報告があった。
 - ・ 中原副部長より、産業衛生学会の 100 周年事業として倫理綱領を決めることになり、今後ドラフト案を元に意見を集めながら 2 年後（2025 年）の学会時に最終承認となるように進められていく予定であることが報告された。
 - ・ 事務局より、これまで部会活動にご尽力いただいた田中茂先生が先月逝去されたため、本日の総会にて黙祷を行うことが報告された。
- 15) その他
- ・ 橋本部部长より、甲府での全国協議会の四部会合同シンポジウム「労働現場における急速な少子高齢化への対応（仮題）」の技術部会からの演者を探しており、後日メールにて相談することとなった。

以上。

（文責：中村憲司，齊藤宏之）